



沖縄
県立

看護大学広報誌

『かせかけ』第10号



連続公開講座の様子

.....平成19年度年間スケジュール.....

- ◆入学式 4月5日(木)
- ◆開学記念日 5月15日(火)
- ◆第9回看護大祭 6月2日(土)~6月3日(日)
- ◆オープンキャンパス 8月4日(土)
- ◆海外研修セミナーハワイ2007 8月26日(日)~9月13日(木)
- ◆連続公開講座 9月~11月
- ◆大学院入試 9月15日(土)
- ◆学部入試(特別選抜) 11月17日(土)
- ◆卒業論文発表会(4年次) 12月21日(金)
- ◆学部入試(一般選抜)前期 2月25日(月)
- ◆卒業式 3月8日(土)
- ◆学部入試(一般選抜)前期 3月12日(水)



学章について

人間が人間を支えていく人材を世に送り出す看護大学としてのイメージをNURSING(看護)の英文字頭文字のNの文字によって人体をデザイン化し、シンボライズしました。

編集：沖縄県立看護大学 広報・情報委員会
発行：平成19年3月8日

大学院教育の 実質化に向けて

沖縄県立看護大学 学長 上田 礼子



平成17年9月に中央審議会は「新時代大学院教育—国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて」を答申しました。それを受けて平成18年3月文部科学省は大学院教育振興策要綱を公表しています。これは大学等における教育研究の高度化、個性化及び活性化などの調査審議を行う中で大学院制度の弾力化、学位制度の見直しなど幅広く検討されてきたが、今後は国際的な水準での教育研究機能のさらなる強化を図っていく必要があるとの認識に基づいています。このため、大学院における人材養成機能の強化と世界トップレベルの競争力を有する教育研究拠点の形成を進め、修士・博士課程における教育課程の組織的展開の強化（大学院教育の実質化）を図っていくことが極めて重要であるとしています。

本大学にも平成16年4月に博士前期および博士後期課程が設置され、すでに5名の博士前期課程修了者が生まれ、19年3月には博士後期課程修了者を社会に送り出す予定となっています。そこで大学院教育の実質化—教育の過程の組織的展開の強化—に向けては大学院における教育の課程（博士課程・修士課程・専門職学位課程）を編制する基本となる組織である専攻単位で、自らの課程の目的について焦点を明確にすることと、当該課程を担当する教員等により体系的な教育プログラムを編制・実践し、学位授与へと導くプロセスの管理及び透明化を徹底していくことを基本的な考えとして、今後の大学院教育の改革を進める必要性を強調しています。その際、特に博士課程にあっては、研究者として自立して研究活動を行い得るよう高度の研究能力を身につけさせる観点から、高度な学術研究に豊富に接する中で魅力ある教育を実践し得るよう教育機能の充実に努める必要があるとしています。

また、大学院教育振興施策要綱では大学院教育の実質化のために具体的方策の例が示されており、その中には各大学院における学位授与の円滑に関する取り組みや学位授与状況を調査・公表等も含まれており、すでに調査が実施されています。この実施期間は平成18年度から平成22年度までですが、方向性としては学位の国際的な通用性、信頼性の確保と国際的競争力のある卓越した教育研究拠点の形成にあります。

本大学もこのような改革の方向性を認識し、戦略をたてて取り組むことが期待されます。

公開講座を受講して

(平成18年度 参加者の声)

平成18年9～11月に本学では4つの公開講座を開催しました。受講者数は合計104名でした。

【一般住民向け】

- 生活習慣病と健康日本21
- カウンセリング初級

【医療保健専門向け】

- 実践力アップのためのケアマネジメント
- 看護におけるコンサルテーション



これらの参加者の方々からいただいた声のいくつかをご紹介します。

- 休みの日を利用した健康体操及び万歩計を着用したピクニックを併用してはいかがでしょうか。
- 自分自身の生活習慣を見直すいいキッカケになりました。
これからもさらに勉強を続けて健康な身体を作りたいと思います。ありがとうございました。
- 初回の質問にひとつひとつ丁寧に答えてくださったので、とてもうれしく心に残りました。
- 是非、カウンセリング中級ならびに上級の開講を希望します。
- ロールプレイでグループワークの後、ディスカッションの時間がとれたらと思いました。
- とても勉強になりました。ぜひ今後ともお願いします。
- 今後の自分の仕事に対する取り組みを振り返るいい機会になりました。
今後大いに参考にしていきたいと思います。
- 遠距離の参加者には18:30開始は時間的にきびしかった。
このような講座を中北部でも開催してほしい。
- 少人数でいろいろな意見が出し合える雰囲気がとても良かった。
病棟で私にできることは何かと考えながら役にたてていきたい。ありがとうございました。
- もっと多くの人が受けられるように広報して人集めをした方がよい。

高校訪問による大学説明会の開催

広報・情報委員会委員長 池田 明子

当大学の広報活動の一環として、県内の各高校を訪問して大学説明会を開催しています。昨年度は15校の訪問でしたが、今年度は夏休み前後の2か月にわたり25校を訪問しました。説明会に出席した生徒の数は高校によって差はありましたが、平均10名程度でした。この説明会は、単に受験情報の提供のみでなく、当大学の教育理念や受験生に対する期待等を直に伝える機会となり、教員側にとってもその高校の雰囲気や受験に対する取り組み等も把握できる貴重な機会となっています。また、説明会に出席された進路指導の先生方と有意義な意見交換が出来たことも大きな収穫でした。

なお、この高校訪問に刺激されてか、高校側からの当大学見学の希望が増加し始めています。今のところ総合学習の一環としての見学ではありますが、今後は公開授業等により高校生の大学での学習機会が増えることで、いわゆる「高大連携」を推進することができるのではないかと期待しております。



〈写真提供：首里高校進路部〉

卒業論文発表会について

第5回を迎えた、卒業論文発表会は、滞りなく終了しました。5回目ともなると、発表会のあり方、その内容（質）について、おぼろげながら、本学の特徴のようなものが見えてきたような気がします。

学生が卒業研究を行えることは、関連施設および調査研究への多大なる理解者の存在により、成り立っていることは言うまでもありません。したがって、そこ

から得られた成果を、学内のみにとどめるのではなく、最終的に、現場に携わる方々や直接的な協力者と本学学生との間で、様々な意見交換を行い、より一層成熟させることは、学生に対する更なる教育効果と、私たち教員に対する好影響も期待されます。

今回、初の試みとして、関係施設等協力者の参加を増やすための方策として、発表会の平日開催から土曜日開催への試験的な実施がなされました。その結果、参加者（学生は4年生を除く）は、の



べ131名、うち学外者は20名（実数）となりました。今回の土曜日開催によって、学外の参加者が、格段に増えるということにはなりませんでしたが、会場によっては、質疑応答の際、学外者の所感や質疑などから自由闊達な意見交換も行われ、卒業論文発表会としては、教育的に意義深い内容であったのではないかと考えます。このこ

とは、学生の行う活動が、現場や地域社会とのつながりをもてる、“看護大学らしさ”として、一つの大きな特徴ともいえるのではないのでしょうか。学生の力を卒業論文という形で発揮させる。私たち教員はそのコーディネーターとしての役割を担っていることは、否定できません。今後、どのような形で発表会を実施するのか、検討の余地はまだまだありそうですが、いずれにしても、大学生らしい学生生活の締めくくりに対応しいものにしたいものです。（宮城政也）



海外研修セミナー — ハワイ2006 —

第1回ハワイ研修（2001）から今年度で6回目を迎え合計122名（男子12名、女子110名）の学生が研修に参加しています。本研修の特徴として、(1)看護研修と英語研修の両方を体験できる、(2)研修施設の大学2ヶ所の特徴を見ることができる、(3)ホームステイが体験できる、(4)外国の看護学生とのネットワーク作りができる、などがあり今年度から渡航時期をずらし現地学生との交流機会をもてるようになったことで研修がさらに有意義なものとなりました。今年は、学生19名、引率教員2名が参加しました。参加学生は、日本ではできない体験から語学の面白さやハワイと日本の保健医療福祉事情の違いを知り、さらに異文化理解に関心を深めたようです。（山城五月）



学生委員会講演会

2006年11月2日（木）の午後、学生委員会の主催により、沖縄県警察本部少年サポートセンター警部補の池原泰子氏を講師にお招きし、「覚醒剤・麻薬・飲酒に絡んだ犯罪事例から学ぶ」という演題で講演会を開催いたしました。「覚醒剤や麻薬、飲酒など、社会的なリスクについて沖縄県の現状を理解し、安全でこころ豊かな地域社会を築き、健やかな学生生活を送るために何が必要かを考える機会とする。」という開催趣旨をふまえていただき、ビデオも用いながら、犯罪事例から学ぶべき事柄を熱く話してくださいました。また、池原氏はご自身の警察官としての使命や、援助する立場としての重々しい胸の内なども明かしてくださいました。講演後のアンケートでは、受講者の98%が「学ぶことがあった」「印象に残る講演だった」と回答し、68%は「自分自身の行動を変える必要性に気づいた」と回答しました。そして、このような有意義な講演会を今後も企画し、実施して欲しいという要望が多数寄せられました。

看護大学の学生がモデルに!



看護大学の学生が、沖縄県警察本部と(社)沖縄県トラック協会により作成されたポスターのモデルとなりました。

図書館の利用と課題

附属図書館 主幹 盛島 明哲

附属図書館は、学部学生、教員に対しては開学以来、平成16年度からは大学院生も含めて、学習支援、研究活動を支援する目的で図書館サービスを実施してきました。同時に、学外の医療従事者や看護専門学校の学生に対しても図書館を開放し、県内における看護、保健、福祉関係の資料センターとしての役割を果たすため、図書館施設及び資料を提供してきました。

この間の図書館利用者は、平成17年度には土曜日を開館し、平成18年度には日曜日の開館も始めたため、平成13年度に52,823人だった利用者が平成17年度では76,084人までに増えています。

平成17年度の入館者は前年度に比べて約2万人の増加となっており、平成18年度も前年度と同程度の利用者増を見込んでいます。資料の利用についても、利用者増と同様、平成17・18の両年度で貸出冊数が約8,000冊程度の増が見込まれています。土、日曜日開館の要望が強かった理由が、数字のうえで現れてきており、予想以上の結果に驚くやら、喜ぶやらといったところです。

開館時間の延長については、まだまだ要望がでてくるものと思います。開館時間が延びれば、利用者が増えるということは当然ですが、現場からみた感覚としては、これ以上、開館時間を延長しても、土、日曜日を開館したような利用者の増は見込めないものと思います。費用対効果からみた場合、開館時間を延長するメリットは少ないものと考えています。

今後の課題としては、図書館資料のデジタル化対策だと思えます。図書館資料の所蔵状況を調べる場合は、デジタル化が進み、オンラインで利用できるようになっており、学外の殆どの図書館へも直接出向くことなく、調べることができるようになってきました。ただ、所蔵資料の殆どは紙の資料で、直接、図書館で手にとって利用しなければなりません。現状は、図書デジタル化は遅れていますが、学術雑誌については、電子ジャーナルと称してデジタル化が進んでいます。当館でも、その一部を提供していますが、利用料金が高額のため、図書館資料としての提供が進んでいません。同様に、データベースの利用についても、もっと増やす必要がありますが、予算上の問題があり、遅れています。



附属図書館では、これからの学術情報の進展に遅れることがないように、必要不可欠なものとして、図書館資料のデジタル化関係予算の確保に努め、早急に整備していかなければなりません。また、この問題は、殆どの大学図書館が取り組むべきこととして取り上げている課題でもあります。

図書館 利用者の声

安里妃都美

去った2月末に第96回看護師国家試験を無事に終え、一段落ついたところです。勉強、勉強の毎日で、辛いこともたくさんありましたが、いざ国試が終わってしまうと、少し淋しさを感じている今日この頃です。

私は学外者ですが、よく看護大学の図書館を利用させていただいています。実習の時や国試までの日々は、殆ど毎日図書館で勉強させていただいていました。館内はととても広くて清潔で静かなので、勉強するにはとても良い環境だと思います。私の一番お気に入りの席はお庭が目の前に広がる窓際の席です。図書も豊富で、

新しい看護の雑誌等は館内に入ってすぐ日の着く場所にあるのでとても利用しやすいです。又、館内のカウンター近くにあるコンピュータでも、図書の貸し出し状況を確認できることや、図書の配置場所を知ることでもできることも魅力のひとつです。カウンターで貸し出し中の図書の予約もできるのでとてもありがたいと思いました。漫画や他の図書もあるので、勉強の息抜きもできます。しかし、学外者には図書の貸し出し冊数が2冊なので、少し少ない気がします。もう少し冊数を増やして欲しいと思います。

看護大学の図書館は私にとってとても落ち着けるお気に入りの場所なので、看護師になっても、利用したいと思います。

実習生を迎えて

那覇市立病院 副院長兼看護部長 中森 えり



那覇市立病院では、薄い灰色チェックの県立看護大学の学生さん達のユニフォーム姿はすっかり見慣れたものになりました。白衣のワンピースに真っ白なストッキングと靴、ナースキャップといった看護師のイメージも変わりつつあります。当院でも、ユニフォームは白ですが、活動的なズボンタイプを着用しているナースが圧倒的に多くなりました。ナースキャップを廃止したのもわずか数年前のことですが、今では当たり前になっています。看護師は何を着ているかではなく、ケアの質で評価されたいし、そのためにはプロとして不断の努力を続けていく必要があります。

しかし、看護大の学生さん達を迎える実習病院は、年々急性期化し慌ただしい業務に追われています。そんな中で実習生の皆さんに十分時間をかけて指導できないのではと気になるのですが、学生の皆さんは患者さんにじっくりと向き合い、その若さと初々しさとで患者さんの心を開かせることができます。知識や技術の前に人間として、病気や手術で弱った患者さんという存在に初めて学生は接します。心身ともに弱った状況にある人間の生に触れるとき、その人の存在に畏敬の念を持って慈しむことができるか・・・看護の原点はそこにあります。患者さんは学生のひたむきさに癒され、日々の業務に追われている現場の看護師は普段気づかないことを発見し、自らを振り返るよい機会になります。また、学生や教員の方からは新しい看護の知識や理論を教えていただくこともあります。看護は人間を対象とする実学であると思えます。患者さんに触れて活かされてこそその学問です。そのためには、学歴に関係なく臨床現場と教育はがっちりスクラムを組んで人材を育み現場を改革しながら、看護の質を向上していくことが求められています。

今、新卒看護師は学生時代に習ったことと、臨床現場が求める能力や業務があまりにも違うことに悩み戸惑うことが多く、それが離職の原因になっているとも言われています。特に大卒看護師は、卒後1年間は大変きつい状況乗り越えなければならないようです。しかし、1年を乗り越えて続けていけば大きな成長がみられます。アヒルの子が白鳥になるように・・・たくさんの白鳥がこれからも育ってくれますように、祈りながら毎年私たちは実習生を受け入れています。これからも大学の皆様とご一緒にがんばっていきたいと思っております。

実習を終えて

3年次 5グループ（2階西病棟/前半グループ）

看護師の方はみんな熱心で、私たち自身の学習意欲を引き出してくださいました。

医師も私たちの質問に親身に答えてくださり、他の病棟の看護師、PTの方も実習にとっても協力的でした。病棟というよりも、病院全体が私たち実習生を受け入れてくださり、のびのびと看護について学びを深めることができました。看護師、他の医療者、そして実習指導教員の学生に対する熱意で満足のいく実習を行えました。

同窓会より

今年度より、同窓会活動に力を入れております。まだ、まだ、発展途上ですので先生方、事務局長など多くの方々に本当に助けられて頑張っています。今年度より、続けていきたい同窓会の活動に年に1回程度の講演会があります。看護大学が沖縄にあることの意義を改めて再確認してもらうためにも、この活動を今後ともぜひ、続けていきたいと思っております。今回は、上田学長が退任されるとのことで、学長に講演依頼をしたところ快くお引き受け下さいました。上田学長、本当にありがとうございます。そして、8年間お疲れ様でした。上田学長のおかげで今回、充実した講演会を企画することが出来ました。企画当初は本当に人が集まるのか、学長は引き受けてくださるかなど試行錯誤しながら、周りの先輩達にもアドバイスを受けながらとなかなか前に進むことが出来ずにいましたが、講演会を企画して本当に良かったと改めて感じました。皆様、本当にありがとうございました。まだまだ、未熟な同窓会ですがこれからも頑張って活動していく予定ですので、どうぞよろしくお願い致します。卒業生の皆様もご協力よろしく申し上げます。そして、同窓会費払ってね♪

ハワイ大学との更新契約締結



沖縄県立看護大学とハワイ大学との調印式

上田礼子学長、神里みどり教授、比嘉良充元教授がハワイ大学を訪問しました。



お知らせ

第1回 沖縄県立看護大学同窓会講演会

沖縄県の看護の質向上に向けた“Challenge”

講師：上田 礼子 先生(沖縄県立看護大学学長)

- 日 時：平成19年3月9日(金) 18時
- 場 所：沖縄県立看護大学 大講義室(4F)
- 参加費：無 料
- 連絡先：沖縄県立看護大学同窓会事務局
TEL：090-7464-5786 (担当/高良)
E-mail：dousoukai@okinawa-nurs.ac.jp

第9回 看護大学祭

- 日 時：平成19年6月2日(土)～
6月3日(日)
- 場 所：沖縄県立看護大学キャンパス

オープンキャンパス

- 日 時：平成19年8月4日(土)
- 場 所：沖縄県立看護大学キャンパス